

平成 26 年度 第 2 回伊勢市環境審議会 記録概要（案）

1. 開催日時

平成 26 年 10 月 9 日（木） 午後 7 時 00 分～午後 9 時 00 分

2. 開催場所

伊勢市役所

3. 出席委員（12 名）

中村 貴司（公共的団体：伊勢商工会議所）
川端 利生（公共的団体：伊勢農業協同組合）
森本 幸生（公共的団体：伊勢市総連合自治会）
竜田 和代（公共的団体：伊勢市女性団体連絡協議会）
山本 実（公共的団体：小俣町商工会）
高橋 虎彦（公共的団体：いせしま森林組合）
朴 恵淑（学識者：三重大学）
深草 正博（学識者：皇學館大学）
笹岡 哲也（神宮司廳）
打田 雅敏（三重県南勢志摩地域活性化局）
岡本 忠佳（公募）
天野 雅弘（公募）

4. 欠席委員（5 名）

船谷 哲司（公共的団体：伊勢商工会議所）
杉田 英男（公共的団体：伊勢湾漁業協同組合）
高橋 克彦（公共的団体：伊勢市環境会議）
坂内 正明（学識者：三重大学）
橋本 清（学識者）

5. 審議事項

- (1) はじめに
- (2) 環境基礎調査の結果について
- (3) 「第 2 期伊勢市環境基本計画」の策定方針について
- (4) その他

6. 審議要旨

(1) はじめに

○環境生活部長（坂本）挨拶

- ・環境基礎調査の結果を踏まえて、「第 2 期伊勢市環境基本計画」の策定方針についてご審議いただきたい。

○会長（朴）挨拶

- ・市民、事業者、皇學館大学の学生にもご協力いただき、環境に関するご意見・ご要望をお聴きすることができた。
- ・現行計画においてよい柱が立てられていると思うが、その後、伊勢市内外で環境に関する大きな変化が起きている。これらを踏まえてこの柱、方針をどうするのか議論していきたい。

(2) 環境基礎調査の結果について

○環境基礎調査の結果について説明（事務局）

- ・資料 2 「第 2 期伊勢市環境基本計画」策定のためのアンケート調査結果（速報）」、資料 3 「伊勢市の環境の概況」、資料 4 「上位・関連計画にみられるキーワード」、資料 5 「伊勢市環境基本計画」の検証結果」の概要を説明。

○質疑・意見等

<アンケート調査結果について>

- ・伊勢市の環境の現況において、市民 1 人あたりの公園面積は比較的大きいという結果があるが、アンケートの環境の現況に対する満足度をみると、「釣りやサイクリングなどの行楽について」など、いくつかの項目で不満であるという意見が多くある。これらについて、どのような理由が考えられるか。
⇒不満の声は、裏返せば要望の声だと考えている。どこまで分析できるか分からないが、どういった方が、どのような不満を感じているのか、分析を続けていきたい。
また、伊勢市では、公園面積は大きいものの、危険な遊具や整備が必要な施設があるなど、老朽化が進んでいる。現在、都市整備部の方で公園の整備計画を策定しており、これに基づいて公園の整備が進んでいくと考えられる。
- ・調査対象について、地区割合や人口割合を考慮して配布されているのか。また、ご回答いただけなかった方への追跡調査のようなものはされるのか。
⇒調査対象者の抽出については、地区の人口割合を考慮して抽出されていると聞いている。
アンケート調査票のボリュームを抑えるなど、回収率を上げる配慮をしている。無回答の方もいらっしゃるが、環境について関心のある方だけでなく、関心の低い方にもある程度ご回答いただけていると考えている。
- ・厳密には、環境教育と ESD は異なり、ESDの方が広い概念である。環境教育（ESD）と表現すると、誤解を生んでしまうかもしれない。
⇒アンケート調査票には、今年の 11 月に開催される ESD ユネスコ世界会議の紹介を掲載しており、その中で ESD の説明を加えている。計画書を策定する際において、誤った解釈がなされないように配慮したい。

- ・環境教育を人権や男女共同参画も含む、幅広い概念として捉えている。
- ・ESD ユネスコ世界会議の開催後、今後の方向性が示されると思われる。ESD には、環境や生物多様性、エネルギーなども含まれる。このあたりが分かるように整理してけるとよい。
- ・伊勢市では、メガソーラーや電気自動車の普及について取り組んでいるが、市民としてはあまり取り組まれていないという結果が出ている。もしかすると、環境保全のためというよりも、ごく当たり前の行動として取り組んでいるかもしれない。そのため、平成 20 年度に実施されたアンケート調査結果との比較も見てみたい。

<伊勢市の環境の概況について>

- ・勢田川の水質が気になる。宮川からの導水を行っているようだが、その効果はあったのか。
⇒導水を行っているが、水質が改善されるほどの水量ではないかもしれない。ただし、酸素が含まれた水を導水することで、少なからず水生生物には影響があったのではないかと考えている。
- ・勢田川の水質の悪化は、生活排水によるものか。また、それは廃食油か、洗剤か。
⇒生活排水だと考えられる。また、各家庭から廃食油は流していないので、洗剤だと考えられる。水質の悪化の原因を考えていかなければならない。そのため、水質調査の地点や回数を増やし、どの支川からの影響が大きいのかを調査している。
- ・原因の地点を特定させることは重要である。また、その地点の居住者に対して啓発することはできないのか。
⇒行政として、地区を特定して啓発していくことは難しいが、公共下水道の接続等を促進していきたい。
- ・勢田川にかかる有連橋という場所で、近所の小学校と連携して、EM 団子を投入している。最近では、以前はみられなかった水鳥が見られるようになり、魚も生息していると考えられる。水質調査がどこで行われているか分からないが、有連橋付近の環境は改善されていると思う。

<「伊勢市環境基本計画」の検証結果について>

- ・数値目標を達成したから良い、達成できなかったから悪いということではなく、その要因・原因を考える必要がある。これまでの取組内容もしっかりとまとめられているので、これらを使って今後の方向性を決めていきたい。

<その他>

- ・伊勢市は、県内で先駆けて電気自動車の普及に取り組んでいる。電気自動車には様々な使い道があることをアピールできるとよい。
- ・電気自動車の普及を進める際には、バッテリーで携帯電話の充電をしたり、照明の電力をとったりすることも考えているので、上手に啓発してけるとよい。
- ・保育園で開かれた運動会において、STOP 地球温暖化の啓発うちわが配られた。こういった普及啓発も面白い。
- ・観光客がレンタサイクルを使って観光できるようになると、自動車の数も減少すると思う。また、観光地として空き家は見苦しい。国でも様々な取り組みがなされているが、空き家の活用方法を考えていく必要がある。

(3) 「第2期伊勢市環境基本計画」の策定方針について

○「第2期伊勢市環境基本計画」の策定方針について説明（事務局）

- ・資料1「第2期伊勢市環境基本」の策定方針（案）、資料6「伊勢市の環境の現状と課題（まとめ）」の説明。

○質疑・意見等

<地球環境に配慮した、資源やエネルギーが大切にされる、循環型社会のまち>

- ・国や県では、エネルギーは産業系の部署で扱っているが、松阪市では環境の部署で扱っている。亀山市では環境産業部という組織をつくっている。伊勢市においても、エネルギーは環境生活部でやるという表明をした方がよいと思う。

<豊かな自然に守られた、水と緑が共生する魅力あるまち>

- ・伊勢市として森林保全をどのように考えているのか。市内には CLT 工場があり、全国から視察も来ている。こうした追い風を利用できるとよい。
⇒伊勢市の面積の約半分が森林面積で、さらにその半分が神宮林である。地球温暖化対策実行計画策定の際にも議論されたが、神宮林については間伐等の適切な管理がなされているが、それ以外の個人、市所有の樹林地について、間伐等の適切な管理を進めていきたいと考えている。木質バイオマスの活用については、需要と供給の問題も含めて難しいとは思いますが、可能性はあると考えている。
- ・県内で鳥獣被害が減少しており、地域ぐるみの対策が一定の評価を得ている。また、県ではジビエ登録制度も行っている。
- ・沿岸域の環境をどう守るかという議論があまり出なかったが、海に関する取り組みにはどのようなものがあるのか。
⇒今問題となっているのは海岸漂着物である。海だけでなく、川から流れてきたものも漂着物として、鳥羽の方に流れていっている。
- ・海岸漂着物に対する予算をとりやすいのは環境だと思う。伊勢は恵まれた環境だが、山も森も川も海につながっているので、海の対策を考えて欲しい。
- ・例えば、松阪市で海を最初に連想することはないが、松阪市には松名瀬干潟がある。ラムサール条約では、条約湿地の条件として人と自然のバランスのとれた湿地であることとした。三重県と松阪市では、この松名瀬干潟を県下最初の条約湿地にしようと取り組んでいる。

<歴史・文化の薫る、快適に暮らせるまち>

- ・空き家対策についてはどこに位置づけられるのか。
⇒基本目標3、都市・快適環境の向上の、住環境の向上に位置づけている。
- ・歴史的・文化的環境の保全に位置づけた方が、伊勢市としてよいのではないかと。
⇒空き家バンクのことも考えられていると思うが、現時点では、住環境に影響を与える倒壊寸前の空き家対策を想定しているため、住環境の向上に位置づけている。
- ・空き家対策は環境生活部が主導権を握るのか。
⇒都市整備部が事務局となるが、建物だけでなく、周辺環境についても幅広く取り組んでおり、関係部署が横断的に取り組んでいる。国が空き家に関する法律を出す予定なので、その動向を見ていきたい。

- ・遷宮やリサイクルについては、どのような考えか。
⇒マイバッグ運動やリサイクルは全国的に取り組まれているが、考え方の原点は遷宮と同じだと考えている。こうした伊勢市民の潜在意識に呼び掛ける取り組みを打ち出していけると、伊勢市らしさもあり、市民へも浸透しやすいのではないかと考えている。
- ・リサイクルの取り組みと歴史的・文化的環境の取り組みを結び付けて考えられるとよい。伊勢市らしさは基本方針にも掲げているので、ぜひ何か取り組んでいきたい。
- ・女性団体では、花いっぱい運動として毎日水やりを行っている。水やりをしていると、地域の人や観光客から声を掛けられ、コミュニティづくりにも発展していると考えている。こうした取り組みについて、まちの美化に入れてしまうのではなく、どこかに入れていただきたい。
- ・勢田川にも四季の花が植えられており、川やまちをきれいにしたいという思いが伝わってくる。

<協働でつくる、人と環境にやさしいまち>

- ・協働でつくる人と環境にやさしいまちにおいても、見直し・新規追加項目がいくつもあるが、行政や学校、市民団体が連携して行う取り組みもあると思うので検討していきたい。
- ・皇學館大學は教育面で非常に強いので、連携していけるとよい。

<その他>

- ・基本目標で受け身的な表現がなされていることが気になる。前向きな表現にしていきたい。
- ・本日の資料については大きな修正はない。策定方針（案）については皆さんのご意見を反映していただき、次回の審議会で議論していきたい。

(4) その他

<森林税について>

- ・導入されている森林税の第一の使い道は森林の整備だと思うが、山、川、海にも大きく関わってくるものなので、こうした予算を積極的に確保し、対策を進めていけるとよい。
- ・他の自治体では、山が荒れたため猿や鹿の被害が増えているということで、約8千万円を確保し、取り組みを進めている。こうした動向をしっかりと捉えて取り組んでいただきたい。
- ・森林税については、市町から提案があれば、県からの助言も含めて予算が下りると思う。
- ・従来の木の伐採だけでは使えないようだが、公園整備に使っているところもあるようで、提案によるようである。勢田川の水質改善も、市から県に申請すれば、予算が下りると考えられる。
⇒県から森林税の活用方針が示されており、災害に強い森林づくり、県民全体で森林を支える社会づくりの2つが示されている。また、5つの取り組みが書かれており、土砂の流出を出さない森林づくり、暮らしに身近な森林づくり、森を育む人づくり、木を宿る空間づくり、地域の身近な水や緑の環境づくりである。取組例としては、荒廃した里山や森林の整備、道路に倒木する恐れのある樹木の除去、水源林の公有化、学校での森林教育の実施、県産材を使用した椅子等の学校への導入、木育、建築物の木質化、園庭の芝生化などに使ってほしいということである。この中では、地域の身近な水や緑の環境づくりで使えるのではないかと考えている。

<その他>

- ・環境省からの連絡になるが、韓国のアヒル農場で鳥インフルエンザが発生したということで、もし鳥の死骸を見つけたら市の関係課にご連絡ください。

- ・団体（女性団体）の活動資金として、どこかで予算がとれるとよいのですが。
- ・レジ袋の収益金から少し予算を回せるとよい。

－以 上－